

2026_0326「小石川植物園のシダレザクラ」日々の理科 4246号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

3月下旬の小石川植物園は、春の気配が一気に満ちる季節です。園内のあちこちで芽吹きや開花が進む中、とりわけ人々の足を止めるのが温室前に立つシダレザクラです。四方に大きく広がった枝から、淡い紅色の花が滝のように垂れ下がり、その姿はまさに圧巻といえるでしょう。見事な枝ぶり、そして一面に咲きそろった花つきに、思わず見入ってしまう入園者の姿が後を絶ちません。

青空を背景に、やわらかな春の光をまとった花々は、風に揺れるたびに微かなきらめきを放ちます。この木は一体どれほどの歳月を重ねてきたのでしょうか。幾度もの春を迎え、そのたびに同じように花を咲かせてきたであろう時間の重みが、静かに感じられます。人はただその下に立ち、見上げることで、季節と時間の流れの中に自らを重ねるのです。

